KSKS ちいろばだより 238

二〇〇〇年十二月十二日　第三種郵便物承認　毎月（一・二・三・四・五・六・七・八の日）発行

「『ババ抜き』」しませんか」

ちいろば会理事　木ノ脇 悦郎

新年早々に変な題と思われたでしょう？ 何の話かというと、トランプの話です。トランプのゲームの中で、ジョーカー〔ババ〕はとても強いカードですね。ゲームの規則を超えた働きをします。いわば独裁者のように、自分の好きなように動くことができるのですね。他のカードが規則通りに動いてゲームを有利に進め、勝利を得そうになった所で突然ジョーカーが出てくると状況が一変してしまいます。このようにババというカードは他のどのカードにもない力を持っています。ですから、カードが配られてくる時にババが入っていると「しめしめ。これでこのゲームは僕の勝ちだ」と喜んだりするのですよ。ところが、ババが来て「しまった、困ったな」と思うゲームがありますね。ご存知の「ババ抜き」です。

誰かに早く引かせてしまいたい、早く自分の手元からなくなればいいと思います。私たちの日常生活の中でも、このゲームのようなことがありますね。そう、アメリカのトランプさんです。困ったことに、世界中の国々にトランプさんと似たような指導者が増えました。

四年前の選挙で、トランプさんがアメリカの大統領に選ばれました。大統領には大きな力が与えられています。それこそトランプゲームのジョーカーのような力です。この大統領はそれまでの政府が進めてきたことで自分の気に入らないことを徹底的に否定し、国際的な約束事も無かったかのように振る舞い始めたのでした。「何よりもアメリカの利益が第一、アメリカの得にならないことはしない」と公言して、環境問題、核軍縮問題、移民の問題、様々な差別の問題を良い方向に前進させるのではなく、むしろ後退させてしまいました。しかし、アメリカのトランプ支持者たちは熱狂的になって彼を英雄のように扱い、「アメリカを再び偉大な国に!」と叫んで回っていました。疑問を持った普通の良識的な人々との間で大きな分裂と衝突が起こるようになったのです。こうして、任期の四年が過ぎ選挙が行われました。たいていの場合、次の二期目も同じ人物が選ばれてきたのですが、今回の選挙ではトランプさんではなく対立候補のバイデンさんが当選しました。

ところが、次の大統領に引き継ぎをしなければならない時になっても、トランプさんはこの選挙で本当は自分が勝ったのであり、バイデンが当選したのは選挙が不正だったと言い張ったのです。その証拠は何も示していません。議員たちの一部の人や熱烈な支持者たちの中にもそれを信じる人たちが多くいました。その結果、とうとうその人たちが国会議事堂になだれ込むという事件になったのです。その直前に、トランプさんが「みんなで国会議事堂に行き、この選挙結果に抗議しよう」と訴えたというのです。一方で自分はジョーカーのような力があると思い、それを利用しながらそれが通用しなくなりそうになるとなりふり構わずなんでもしようとする。それがババの力です。トランプさんと仲良しだった日本の総理大臣も、その後を引き継いだ人もなんだか似たようなことをしているようです。

今年は私たちの国の将来にとってとても大事な選挙がある年です。そろそろ困ったジョーカーには退散してもらいたいものです。ババ抜きをする時期かもしれませんね。

こころが動く

ちいろば会事務長　和田　泰子

新しい年を迎えても、新型コロナウィルスの猛威が終息する気配が感じられない不安な日々が続いています。

昨年は、ちいろば園も恒例の行事を開催することができずに利用者のみなさんには変化の多い 1年となりました。しかし、利用者のみなさんが楽しめるおまつりやハイキング、クリスマスパーティー等、ちいろば園が目標にしている『利用者主体』を軸にした取り組みが少しずつ形になったようにも思います。また、他事業所との交流やパンジーメディアの取材を受けたりと外部との活動も可能な限り行い、その中で私の心が大きく動いた出来事がありました。それはパンジーメディアの上映会と取材でのことです。(詳細はちいろばだより 237号で紹介)

パンジーのみなさんが来園された時、私がちいろば園に入職して少ししてから知り合った生田進さんと再会しました。生田さんはパンジーの当事者活動で活躍されていて、ピープルファースト大会やその他いろんな集会でお会いすると「ちいろばの和田さんや」といつも笑顔で声をかけてくれる優しいおじさんです。最近ではあまり外部の利用者さんとお会いする機会が少ない私にとって、生田さんから「和田さんや、久しぶりやな。俺も古いけどあんたも古いな。」といつもの笑顔で声をかけられると何とも言えない温かい気持ちになりました。そして、盛り上がる会話の中で長年パンジーの職員として頑張っておられた方が退職したという私にとって衝撃的な事実を聞きました。その方は、1998年にピープルファースト奈良大会を開催するための実行委員会等で右も左も分からない奈良の当事者や支援者を近くで支えてくださり、その後も私が書いたちいろばだよりの記事を読んでは共感してくださっていたので、退職したと聞いたときは「えっ！嘘やん、本当に？」と何度も聞き返して生田さんを困らせていました。その方がパンジーを退職するということが全く想像できなかったので、ショックで暫くは気持ちの整理ができない状態でした。

また、パンジーメディアの取材に同行して理事長の林淑美さんが来園されたことも私にとって大きな出来事でした。林さんもピープルファースト奈良大会では精神的に大きな支えとなり、ちいろば園が法人化する時にも様々な情報を提供していただいたりと大変お世話になりました。

ちいろば園は、法人化する前からパンジーの取り組みを目標にしていたので、林さんが法人化してからのちいろば園に来園されるというだけでソワソワし、活動を直接見ていただくことに不安もありました。しかし、取材を終えて、ちいろば園の作業活動を評価してもらえたことがとても嬉しく、自分たちが目標としている組織の方々から評価を受けることができたことに心の中で「よしっ！」と呟き小さくガッツポーズをしていました。

パンジーメディアの取材を通して感じた“こころ”の動きは私の力になります。

今後もパンジーの後ろ姿を追い続けながら、ちいろば園らしい活動を継続していきたいと思います。

みんなが主役のクリスマス会

ちいろば園職員　新宮　由士

12月に入り皆さんクリスマス会を待ち遠しい様子。ただ、中にはその楽しみなクリスマス会がいつ行われるのかなかなかわかりにくい人もいます。そのような人のためアドベントカレンダーが作成されました。1日すぎるごとにシールを貼りクリスマス会の日が目でみて確認できるカレンダーです。対象の人だけでなくこのカレンダーを通して話が盛り上がることも多く色んな人から好評だったと感じます。

礼拝では、聖書朗読者の中には言葉が聞き取りづらい人もいました。自分の言葉が上手く伝わるようパソコンの音声読み上げとプロジェクターで文字を映し、みんなにわかるように工夫がなされていました。

ゲーム「クイズ　このあじなあに」では昨年、目隠しをして何を食べたのか当てるというというルールでしたが、目隠しをすることで不安になる人や意味が十分理解できず目隠しを取ってしまう人がいたり進行もスムーズにできないことがありました。今回、その反省点も踏まえワンタンの皮で食べ物を包み何を食べたか当てるという改善もされ、よりゲームが楽しまれる工夫がありました。

どれもが利用者の皆さんが主体的に取り組めるための合理的配慮であると感じます。

司会進行も含め、礼拝、パーティーの内容どれも利用者の皆さんが中心に進んでいきました。支援者はあくまでサポートに徹してきました。支援者がマイクを持って話す場面は無かったのではないかと思います。台本では書かれていないアドリブもたくさん飛び交いクリスマス会を盛り上げる場面や一人ひとりが役割をもち行事に参加できている場面をみると、みんなが主役のちいろば園が少しずつ形になってきたのではないかと思います。

11月14日（土）　避難訓練を実施しました。

― にぬふぁ星、日之出荘、エンゼルハウス、ユイマール ―

エンゼルハウス

エンゼルハウスでは、am10:00（地震発生時間）に近くの公園に避難し、城山自治会館まで行きました。今回は、3回目の避難訓練でしたが去年よりも早く避難することができました。自治会館に着いた時、同行した職員は、避難袋を持ち出すことを忘れていたことに気づきました。その時、ひとりの利用者さんの背中に避難袋が背負われているのが目にはいり、おもわずかけよって「ありがとう！」と声をかけたそうです。

城山台に転居して、避難訓練をくりかえすなかで避難袋の持ち出しが自然にできたことは、毎年取り組んできた成果だと思いました。去年は、自治会の避難訓練に利用者さんと一緒に参加しました。エンゼルハウスの存在を知ってもらえ、近隣の人々とのふれあいがあり、関りが深まったことがうれしかったです。

地域で暮らすようになったと言っても　そこに溶け込んだ生活をするのは、なかなかむずかしいです。そのためには支援者が町内会やご近所との関係をきづいていくことが大切になります。さまざまな経験が不足している事が多い利用者さんにとっては、これまで経験したことのない事をいくら言葉で説明してもなかなかうけとめてもらえません。

今回の避難訓練のようにくりかえし行うことで　利用者さんが災害時の行動を少しずつ理解できるように支援し、これからも地域での暮らしをささえていきたいと思います。　　文責：窪

にぬふぁ星

日之出荘

コロナ禍における予定の変更

ちいろば園職員　玉野　康二郎

新年あけましておめでとうございます。

ちいろば会に入職してから、気が付けば 1年少しが経過しました。月並みな言葉ですが、あっという間の 1年あまりでした。

昨年を振り返ると、やはりコロナウィルス感染予防に追われたことが一番印象に残っています。予定していた行事が次々と中止になり、残念な思いを利用者さんに強いたことと思います。また同時に、予定の変更を上手く伝えきれず、混乱させてしまったこともありました。

8月20日の、作業開始まもなくの出来事でした。私が担当させていただいている軽作業2階の作業室にて、ファイルに閉じてある、ちいろば園の年間予定表を見ていた O さん。私の方へ近づいてきて、年間予定表の「9月3日」を指差し、「ちいろばりょこう　いく」と私に話しかけてきました。「9月 3 日」はちいろば旅行に行く“予定だった日”ですが、コロナ禍で中止が決まっていました。私は、O さんに「今年の旅行は中止です」と言ったのですが、O さんは「りょこう　いく」と譲りません。

「りょこう　いく！！！」と連呼しだした O さんの語気は次第に強くなり、その声は園内中に響き渡るほどでした。額からは汗があふれて、困惑した表情と、怒ったような表情が交互に現れているのが読み取れました。

私は、旅行の中止の件を O さんに伝えたと思っていたのですが、理解できるよう伝えていなかったことを、その時、痛感しました。

結局、声を聞いた施設長と主任が O さんに話をしてくれ、O さんに理解、納得してもらいました。予定の変更が O さんに伝わるよう工夫して支援しなかった事を今も悔いていますし、申し訳ないことをしたと思っています。

この出来事から、予定の変更があった時は、一人一人の障害特性を十分考慮し説明を行うこと、かつ個別に説明が必要な場合は、視覚情報ツール等を用意した上で理解して頂くよう細心の注意を払うことを学びました。また、実践するよう努めています。

そのかいあってか、以後、担当グループの皆さんにおかれまして、コロナ禍での行事の変更等に落ち着いて対応して頂いていると思います。勿論O さんもです。

予定の変更が苦手な利用者さんは沢山いらっしゃると思います。

願わくは、予定の変更は無いほうがよいのですが、コロナ禍で、やむを得ない状況だとも思います。

いち早いコロナウィルスの終息を願うばかりです。

2020年度ちいろば会ちいろば園稼働予定表

※あたらしく、 へんこうしたもの

2020年

4月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

5月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

6月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

7月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

8月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

9月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

10日流しそうめん

13～16日夏季休業

14日　ころなに　まけるな！おまつりだ！

※ころなういるすが　はやっているので、ちいろばりょこう、ちいろばまつりはちゅうししました。（ありません）

利用者主体の事業所を実現するために

ちいろば園職員　阪本　大和

2019年度ちいろば会の年間目標は、「利用者主体の事業所をめざす」でした。それをきっかけに障害当事者の会「ちいろば園みんなの会」（以下みんなの会）が発足されました。会長など計7名の役員を選出して、ちいろば園の利用者みんなが主役になる事を目指し、みんなの代表として日々活動をしています。

主な活動は、毎週行われる定例会、合同終礼の進行、職員面談、行事の企画、提案などです。

私は、今年度4月からみんなの会の活動に参加することになりました。初めて定例会に参加した時、衝撃を受けたことを今でも覚えています。当事者の方同士で意見を出し合い、時には協力し合って話し合いが進んでいきます。普段の作業活動では感じることのできない空気感と緊張感に圧倒されました。これが本当のちいろば会が目指す当事者主体の活動なんだと感じると同時に、普段の作業活動が、職員が指示をだし、職員だけで物事を決める職員主体の活動になってしまっていることを痛感させられました。

みんなの会の活動によって、利用者のみなさんに変わってきたことがたくさんあると思います。先日行われたクリスマス礼拝・パーティーの出来事ですが、礼拝の司会に決まった会長T さんが翌日、自分で考えたセリフを紙に書いて見せてくれました。その後も毎日のように、自主的にセリフを練習している姿はとても輝いていたように思います。パーティーの前日、T さんに「セリフを置いて帰るが、なくなると不安だから一晩中見守ってくれ」と言われました。T さんからは不安よりも自分が頑張ってきたんだ、主役になるんだ。という自信や責任感のようなものを感じました。ちいろば園全体を通しても、自分たちの役割に主体的に取り組む姿がありました。これまでの行事は職員が主体で、利用者は受け身というイメージがあったのですが、利用者自身が、「自分たちが主役だ」という気持ちが強くなっているように感じました。

また、今年度は私自身、利用者から指摘をされることが増えました。「もっとたくさん作業をさせてください。」「もっとわかりやすく説明してください。」など耳が痛くなるような事も言われることがあります。これまで職員に対しては意見をしてはいけない。とか職員が偉いんだ。みたいな空気感があったと思いますし、まだまだ思ったことを職員には言えない利用者の方もたくさんいると思います。それでも、みんなの会の役員が全体の場で職員に対してきびしい意見をすることが増えてきたことで、職員は偉い存在でもないし、利用者のみなさんがもっと意見していいんだと、思えるようになってきているのではないでしょうか。

私自身はみんなの会という当事者主体の活動にかかわらせ頂くことで、どうすれば一人ひとりが活躍できるのか、当事者主体の活動になるにはどんな支援ができるのかという考えのもと日々の作業活動に取り組むことができるようになりました。

次号からは、このページを利用者みなさんの生の声を発信していくページにしていきたいと考えています。

＝『ちいろば園　みんなの会』のおもな活動を紹介します！＝

【定例会】

毎週火曜日に集まり、翌日の合同終礼を進行するための準備をします。

自分のコーナーの準備ができたら、「〇〇さん、なんか手伝おうか？」と声をかけて協力してすすめています。

その都度、話し合う議題があれば、みんなで意見を出し合い話をします。

【合同終礼】

毎週水曜日、ちいろば園の全員が食堂に集まり、さまざまなことを発表する場です。みんなの会のみなさんが司会進行をします。「ピンポンパンポン♪」の鐘の音で合図をして始まります。

【イベントの企画】

ちいろば園のみんなで楽しむ「おまつり」や「クリスマス会」などのイベントの内容を考え、みんなに周知します。時には寸劇で伝えることもありました。イベント当日の進行役も担いました。

【他事業所との交流】

今年度は、コロナウイルスで直接会って交流することが難しい…ということで、Zoomを使ってリモートで交流会をしました。写真は、八尾市にある社会福祉法人ゆうとおんさんとのリモート交流会の様子です。

☆後援会費・ちいろばだより年間購読料（2020年10月1日～2020年11月30日）
ご協力ありがとうございます。

篠原範子、光田邦二、長谷川多鶴子、吉岡由里子、大谷龍樹、菱田久美子、大賀　太
大西眞規子、松藤みどり、木ノ脇悦郎、本圓喜代美

以上　敬称は略させていただきます

今年もたくさんの方々から、年賀状を頂戴しました。ありがとうございます。
どうぞ、今年もよろしくお願いします。

2020 年 12 月 23 日　クリスマスパーティーにて

KSKS　ちいろばだより

編集人／　ちいろば会後援会　　年 6 回　頒価　50 円
連絡先／　奈良県生駒郡三郷町勢野北５－６－１４
TEL：0745-72-1923 FAX：0745-72-1924
発行人／　関西障害者定期刊行物協会
大阪市天王寺区真田山町２－２　東興ビル４Ｆ

二〇〇〇年十二月十二日　第三種郵便物承認　毎月（一・二・三・四・五・六・七・八の日）発行